

## 第5回 品川区地域福祉計画策定委員会

### 議事概要

日 時 : 平成31年3月28日(木) 午後1時30分～2時40分

場 所 : 中小企業センター 3階 大会議室

---

○ 中川原副区長あいさつ

○ 菱沼委員長あいさつ

#### 1. 議題

第3期品川区地域福祉計画(素案) 説明

・事務局より説明

(質疑応答)

菱沼委員長:

72 ページからの、策定の経過に掲載とおり、本策定委員会 5 回だけでなく、いろいろな取り組みを進めてきた。

まずは、この委員会前に行った「区民アンケート調査」と「専門職アンケート調査」では 74 ページに記載のとおり、区民の方や、実際に自分ではなかなか困りごとを発言することができないような方々の声について、支援をされている専門職の方々に代弁をしていただきたいということで「専門職アンケート調査」も行った。

その他、73 ページに掲載のとおり、地区ごとに地区懇談会を2回開催しており、計画を策定するにあたり、地域の方々の声を聞き、さらに素案ができた段階で、そちらをもとに地域の方にご覧いただき、コメントをいただいている。十分に声が拾い上げられたかという、どうしても限りはあるかと思うが、できる限り区民の方々の声を聞くという観点で、進めてきた。また、パブリックコメントも拝見したが、非常に丁寧に見てくださり、ありがたいと思う。

本計画の位置付けを見ると、基本的には「包括的な支援体制をどのように構築

するか」ということであり、大きな枠組を整理した。個別の具体的な方策、施策については、各分野別の計画で明記する部分もあるので、できる限り地域福祉計画の中で盛り込めるところは盛り込んだ。盛り込めなかった細かい部分については、分野別の計画で、意見を大事に受け止めていただくことになっている。

全体を通して、意見をいただきたい。

#### 〔質疑①〕

委員：

全体的に当事者が直接言える体制ではないと思う。できれば直接、障害者や当事者が参画できるようなくみとしていただきたい。

パブリックコメントを見ると、具体的に「こういうことが足りない、ああいうことが足りない」と書いてあるが、本計画の位置付けからして、あまり具体的なことが取り上げられないのは当然だと思う。しかし、自助、公助、共助の中で、品川区は公助の部分が少し薄いのではないかと思うので、本計画の課題ではないが、真摯に受け止めていただきたい。統計を客観的に見ると、品川区の施策は、残念ながらほかの区に比べて水準が低い。それは共助や互助、自助などでは補えないところもあるので、こちらは各部署、あるいは各計画を推進している関係各所にお伝えしたい。

また、本編8ページ、「3.基本構想、基本目標」に、「多様性を認め合う意識を醸成する」とあるが、ただ認めるだけではなく、受け入れるという姿勢がないと、結果的に差別につながっていくこともあり得る。認め合い、受け入れていくということは、インクルーシブな考え方で、それを基本目標の中に、もう少し入れていただければ良かったと思っている。

菱沼委員長：

いずれも大事な意見である。当事者の参加に関しては、本計画でいう当事者とは、非常にさまざまな方がいる。皆さんも何らかの当事者であり、その中で何らかの生きづらさを抱えた方々の声を丁寧に聞いていくことは、ご意見のとおり、とても大事な点だと思う。今後、計画策定の委員会を進めていく際には、今の視点も大事に検討していただきたい。

公助については、財政的な部分などいろいろなことが絡んでくるが、どのような部分の公助としての整備が必要かという、分野別計画の議論をしっかりとやっていくことになる。今回いただいた意見はそれぞれの担当課の方々が持ち帰り、議論につなげていただきたい。

3 つ目の「認め合う」というところで、違いを受け止め、受け入れていくという考え方は、とても大事なところである。この考え方については、今後、本計画を区民の方々に理解していただく際に、共有していけたら良いかと考える。

事務局：

特に3番目にいただいた意見は、とても大切なところだと思っている。そのようなところも踏まえた上で、基本目標に多様性を取り上げており、本編では、28 ページ以降の「施策の柱.1 気づく心とつなげる気持ちをはぐくむ」で、多様性を認め合う必要性、あるいはその大切さなど、相互理解などについての記載をしている。今後は本計画に基づき、あるいは本計画をきっかけに、地域の方とこのような課題について考えながら、本計画を推進していきたいと思っている。

委員：

福祉行政も変わってきており、このような計画を見ると、障害者のことや、介護や医療などの必要な高齢者に計画の重点が重くなってきている。おそらく費用などの部分も比重が大きくなってきており、健常な高齢者は、自分で予防して元気に長生きしなくてはいけないとつくづく感じている。

菱沼委員長：

誰しも健康に過ごすことができたらという思いがある。そのような部分の気持ちも応援していけるようなしくみとして、いろいろな情報提供をし、何かをしたいときに、その活動を応援していけるようなしくみとしての本計画になると思う。

委員：

先日、区議会だよりを拝見し、ある党から「品川区の福祉は23区で最低だ」という内容の質問があった。品川区は住みやすい、住みたいまちということで、話題に

なっており、一方の意見で「23 区で最低だ」というのは、私は少しお門違いで、ぜひ払拭してもらいたいと思っている。この言葉が堂々と動いていくと、品川区にあまり詳しくない方は、「品川区はそんなに福祉は良くないのか」という話になりかねない。特にこのような福祉計画について、本当にきめ細かいことまで皆さんの意見をいただきながら策定作業を行っている現実に対して、少しギャップを感じた。

近隣 5 区や、城南地区で福祉に対するランクづけなどはないだろうが、どのように事務当局では感じているか。私どももそう理解しているが、非常に自信を持って「福祉計画はやっているよ」など、その点に関してぜひご意見をいただきたい。

#### 事務局：

例えばある指数で 23 区を比較した意見をいただいたが、決してそのような指数だけで品川区の福祉を測れるものではないとは思っている。先ほど公助という話も出たが、行政でも取り組んでいるものはたくさんある。そうした中で、品川区の福祉、あるいは品川区という地域として、維持、発展をしているのが現状だと思っている。一部の数値を捉えた視点だと、なかなか全体が見られなくなってくると考えており、決して品川区の福祉は他区に比べて劣っているとは思っていない。今後とも福祉を進めていく中でも、本計画が 1 つの大きなきっかけになると考えている。

#### 菱沼委員長：

この点については、それぞれ地域のニーズの状況によって、施策の違いなどは出てくると思う。大事なことは、他の区と比較してというよりも、品川区で暮らしている方々の生活をしっかりと支えることができているかである。足りないところはしっかりと整備していく必要があるし、がんばっているところはプラスの評価をしていくことになる。

客観的に見たときに、例えば子育ての「しながわネウボラネットワーク」や「支え愛・ほっとステーション」は、がんばっている印象がある。そのほか、町会・自治会、子ども会や、PTA の方々もがんばっていただいているので、個々の取り組みはとも良いものがある。あらためて、そのようなことも大事に評価をしつつ、足りないところはどのようにしていくかを、生産的に考えていけるような議論ができると良い。

委員：

NPO法人の活動は、行政のものではなく、民間のものではあるが、本計画の中で、どこにいるのかつながりが見えにくいと思っている。その点で、最後にまとめたものを見て、少し寂しい気持ちになった。

41 ページのコラムに、「地域で活動されている団体の紹介」として、町会・自治会、高齢者クラブ、青少年対策地区委員会、青少年委員会がある。最後に米印で「※その他、区内で活動するNPO法人や、社会貢献活動を行っている団体」ということで、ようやくここにNPO法人のことが出ていると思ったが、やはりその他ののだなと率直に感じたことは否めない。

NPO法人の存在は、20年間で画期的に進んできている。地域課題が複雑になり、行政の財政問題や、非常に専門性や個別性など、あるいは区内全域で均等にできないようなことも、課題としてあるのが現状である。NPO法人が得意とする手法ややり方で、さまざまな地域課題を解決していくという役割を担っており、その存在価値は非常に大きくなったと自負している。

区から委託事業や助成事業でお金をもらい、下請け的にやっているわけでもなく、主体としてやっており、行政、企業、NPO法人やさまざまな民間のところも、対等な関係でこの課題に取り組んでいくことが、非常に大事だと思っている。

しかし、本計画の中で、行政が行うことはあるが、協働という観点が、どうしても見えにくいと感じざるを得なかった。

事務局：

本編 40、41 ページ、「方向性(1) 地域 活動等の活性化」のところで、町会・自治会等の紹介をした中にNPO法人の紹介をしており、NPO法人等の活動に対しては、区としても非常に大きな関心を持ち、必要なパートナーと認識している。

しかし、本計画の中での、協働という観点からの書き込み、あるいは踏み込み方という部分では、意見をいただいたような点があると認識している。今後、町会・自治会、民生委員など地域で活躍されている方や、NPO法人、地域の企業といった、地域を構成する皆様と一緒に計画を進めていく、あるいはそのためにはどうしたら良いのかについて考えることが必要だと思っている。

菱沼委員長：

NPO法人と行政との連携の際に、行政が決めた枠組の中で、それを委託し、受けてくれるNPO法人と協働していくことが主になってしまい、NPO法人側の主体的な創造性や先駆性などが、なかなか育まれない場合がある。その点では、単に業務委託ということだけではなく、NPO法人の主体性が発揮できるような支援のあり方が大事である。行政だけでなく、社会福祉協議会とも一緒になり、区内のNPO法人を支援、または連携していくということになると思う。

今の意見に関して、40 ページでは「連携支援」となっているが、連携の中身については、関係する方々できちんと意識を共有していくことが大事である。活動主体としてのNPO法人の役割は大きなものがあり、その大事さも、この委員会の中で皆さん方と共有しておきたいと思う。

表記については、41 ページにNPO法人の内容があるが、これはたくさんの法人がある中で紹介が難しいところがあり、「その他」に入ってしまった。どのようなNPO法人があるのかを、区民の方々にも知ってもらえるような工夫が必要であり、表現が十分ではないという意見をいただいているので、それを踏まえた上で、今後の施策で活かしていただくようお願いしたい。

そのほか、いかがか。

よろしければ、今の段階の計画素案と概要版を本委員会としてまとめさせていただきたい。今後、本計画を進めていくにあたっての意見は、また引き続き事務局にお寄せいただければと考える。

この素案について、お諮りしたい。概要版を含め、お認めいただけるか。

[ 委員一同、異議なし ]

## 2. 今後のスケジュール

### (1) 計画公表について

#### ・事務局より説明

本計画は、「広報しながわ」と「区のホームページ」にて5月21日に公表予定。

## (2) 今後の進行管理について

### ・事務局より説明

今後は本計画書をもとに、地域福祉推進の進行管理のための推進委員会を立ち上げていく。推進委員会自体は、第2期の際は、年1回、委員長を含めて11名ほどの委員で進行管理を行ってきた。新たな計画では、地域包括ケア推進の観点で数名の方に加わっていただき、現時点の事務局案としては、15名ほどで進めていければと考えている。

## 3. 質疑応答・意見交換

### 委員：

計画の進行管理はとても大事である。これが具体的な建物や製造業のような場合だとPDCAの評価が比較的楽だと思うが、このような非常に広範囲の内容で、なおかつ人の感覚で非常に評価が分かれるものに対して、どのような評価を想定しているのか。

### 事務局：

26、27 ページ「施策の体系」に、本計画で、どのような施策を展開していくかを体系にまとめている。27 ページの一番上の【具体策】のところでは、具体策に紐づく形で、各所管が事業を展開しており、進捗管理については、事業の進み具合をPDCAの中で見ていくことを考えている。

それぞれの施策などを展開することにより、最終的にこの計画目標がどこまで、どのような形で達成できているのかを、進捗管理として見ていただく。ただし、具体的な数値に落とし込むことは難しい部分も多々あるため、さまざまな意見を聞きながら、どのような方向でやればいいのかも含め、考えながら進めていくような場にしていきたい。

### 菱沼委員長：

今の計画評価については、アウトプット評価とアウトカム評価というものがある。アウトプット評価は、何を何回したかの評価で、数値が出て達成率が見えるが、それにより、どのような成果や課題があったかという評価が、アウトカム評価である。

アウトカム評価は、担当者が捉えている部分と、実際に活動している方々が感じている部分の意見をいただく形で進めてきている。単に何を何回したかではなく、その結果としてどのような成果や課題があったのかを大事に、評価をしていくことが重要だと思っている。今までもそのようなことで、進めてきた。

全5回ということで、非常に限られた中で皆様方のご意見をいただき、まとめた。策定する中では残された課題等も出ており、今後の計画推進はどのようにするかについても、皆様と力を合わせて進めることができればよいと思う。

#### ○ 福祉部長あいさつ

全5回の策定委員会にご出席いただき、皆様には活発に、本音でお話いただき、大変有意義な1年間だったと思っている。

特に、第1回と第2回の委員会では、さまざまな立場の方とのグループワークを行っていただき、1つのことがほかの立場になると違う意見になるということを、本当に切実に感じた。やはり地域の中で、皆で納得して生活をしていくことが、本当に一番大事なことで、そのミニ版をやったような感じがしている。そのような意味では、この策定委員会自身、議論の経過自体がとても有意義で、本計画のスタートだと感じている。

PDCAの話もあったが、なかなかすぐに数字では表れにくく、第2期と第3期を比べると、皆様自身が地域のことを愛し、地域のことを良くしようという意識が出てきていると感じた。第2期と第3期で変わったのは、「支え愛・ほっとステーション」ができたことが一番大きいと考えている。本計画の成果は表れにくいものだが、長い年月が経ち、その当時と比べると、意識が変わっているということを実感するものだろうと思っている。

ぜひ5年後に、またそのような成果が出るものになるよう、今日のこの日をスタートとして行政でがんばっていくので、皆様の協力をお願いしたい。

〔了〕